

## 第 28 回日本義肢装具士協会 学術大会 参加報告

笹川 友彦

熊本総合医療リハビリテーション学院 義肢装具学科

## 1. はじめに

2018年の札幌大会で2020年開催とプレゼンされた大会が、コロナの多大なる影響を受け、ようやく完全対面にて開催された。4年ぶりの対面学会で、業界関係者の方々と対面で話す機会を持ち、これまで忘れていた学会の醍醐味を満喫することができた。

## 2. 大会概要

日時：2022年7月9日(土)・10日(日)

会場：岡山コンベンションセンター

大会長：植田幸一(橋本義肢製作株式会社)

大会テーマ：つながり

## 3. 当日の内容と感想

これまでの学会同様、3会場で平行した特別講演、海外招待講演、教育講演の他、59題の一般演題、マニュファクチャラーズワークショップ、商業展示などのプログラムが実施された。

まず義肢装具業界のトピックス“フットケア”に関わるプログラムの充実が特徴的であった。糖尿病などで切断に至っていた患肢を可能な限り温存するため、形成外科・皮膚科・血管外科との連携や義肢装具の重要性が意識されるようになって来た。また医師のタスクシフトとして2024年から義肢装具製作に関わる胼胝や巻爪への処置が義肢装具士にも可能となるため、協会としても講習会開催を計画しており、今回の学会で義肢装具士の役割を広く認知してもらおうという意図を感じた。

またもう一つのトピックス“デジタル技術の活用”に関わる講演・演題発表が増えている。義肢装具製

作手法として、① iPad + ストラクチャーセンサーによる非接触のスキニングによる採型、② PC を用いた CAD 上で修正、③ 発泡樹脂塊をミーリングマシンで切削しモデル作製、④ これを元に義肢装具を製作という流れが可能となって来た。またモデルを作製せず、3D プリンタで義肢装具を直接出力する報告も増えており、これらデジタル技術の利活用が今後の業界を大きく変えていくことは間違いない。

近年、ビギナーズセッションと題して、1つの枠を設けている。卒業研究や卒後間もない義肢装具士の研究に対して協会が指導者をおき、学会発表に向けた演者への指導やアドバイスによって、発表をサポートすると共に、発表に対する敷居の高さを少しでも和らげようという取り組みである。今回も5名の若手義肢装具士が発表し、質疑にも堂々とした対応を見せていた。ぜひとも今後も研究発表を続けていただきたい。

昨年はオンラインで開催されたが、一般演題に対する質疑が活発で満足度は高いものの、人対人のコミュニケーションや出会いは全く感じられない。少しばかり観光感があり、現地特産物の飲食に満たされ、人とのつながりを感じ、新たな出会いがある対面学会はいつまでも記憶に残るものである。大手を振って対面学会を楽しめる日が来ることを心待ちにしている。



図1 開会式の様子

熊本総合医療リハビリテーション学院

〒861-8045 熊本県熊本市東区小山 2-25-35